

凸版印刷、「CDP2021 サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に選定
気候変動課題に関するサプライチェーン全体を通じた取り組みが評価され
CDPのサプライヤー・エンゲージメント評価(SER)における最高評価を獲得

凸版印刷株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役社長:磨 秀晴、以下 凸版印刷)は、環境情報開示に関する国際的な非営利団体 CDP による 2021 年度調査において、サプライヤー・エンゲージメント評価(SER)における最高評価「CDP2021 サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に選定されました。

なお凸版印刷は、2021年12月に発表された CDP「気候変動」においても最高評価「Aリスト」に選定されています。



サプライヤー・エンゲージメント評価は、企業が気候変動課題に対してどのように効果的なサプライヤーとの協働を行っているかを評価するものです。具体的には、気候変動に関する取り組みの中でも、「ガバナンス」「目標」「スコープ3GHG(温室効果ガス)排出量(※1)」「バリューチェーンエンゲージメント」の4項目が評価対象となっています。

CDPは、サプライヤー・エンゲージメント評価において最高評価を獲得した企業を「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」として表彰しており、2021年度はCDP質問書に回答した全世界企業の上位8%にあたる500社超、日本企業では105社が選定されました。

凸版印刷は、低炭素排出の製品・サービスの提供を通じて、グローバル含むグループ全体でのスコープ3GHG排出量削減に積極的に取り組んでおり、その取り組みが評価され今回の選定となりました。

■ CDPについて

CDPは国際的な環境非営利団体で、世界の企業・自治体を対象に、環境問題に関する高い目標設定・リスク管理・情報開示などの取り組みについて調査・評価を行っています。

CDPが年次で実施している評価プロセスは、企業の環境活動評価のグローバルスタンダードとして広く認知されており、2021年度は、運用資産総額が110兆米ドルとなる590社強の機関投資家がCDPを通じた環境情報の開示を求め、過去最高の約13,000社の企業がこれに応じています。

■ 凸版印刷の環境への取り組み

凸版印刷は、地球環境の保全に配慮した事業活動による持続可能な社会の実現に向け、環境課題

への長期的な取り組み方針を定めた「トッパングループ環境ビジョン 2050」を 2021 年 1 月に策定。本ビジョン策定に合わせ、SDGs ターゲットイヤーである 2030 年に向けて、「トッパングループ 2030 年度中長期環境目標」として GHG(温室効果ガス)排出量削減などの数値目標を新たに設定し、その達成に向けた取り組みを進めています。

また、気候変動課題がトッパングループの事業に与える影響の大きさを認識し、TCFD 提言に基づいたシナリオ分析と「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」4 項目での情報開示を行っています。

凸版印刷は今後も、「DX(Digital Transformation)」と「SX(Sustainable Transformation)」によってワールドワイドで社会課題を解決するリーディングカンパニーとして、気候変動を含む環境課題への取り組みを加速させていきます。

※1 GHG(温室効果ガス)排出量のスコープについて

スコープ 1: 自社での燃料の使用や工業プロセスによる直接排出

スコープ 2: 自社が購入した電気・熱の使用に伴う間接排出

スコープ 3: スコープ 1 および 2 以外の間接排出(サプライチェーンを含む事業者の活動におけるその他の排出)

* 本ニュースリリースに記載された商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。

* 本ニュースリリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。

以 上